

旭ヶ丘キリストの教会

主日礼拝順序

2025年8月31日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 禱		一 同
讃 美※	聖歌497「輝く日を仰ぐ時」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	聖歌511「わが友、主イエスは」	一 同
教会学校	絵本「ギデオンの角笛」	牧 師
讃 美	讃美歌420「あなたの持てる悩みは」	一 同
聖書朗読	詩篇9:1-7	
奨 励	詩篇の福音(第11回)	牧 師
主 題	「圧倒的な勝利者」	
讃 美	聖歌489「人生の海の嵐に」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	聖歌378「栄えあれや」	一 同
祝 禱※		牧 師
来週の箇所	使徒行伝 18:18-22	

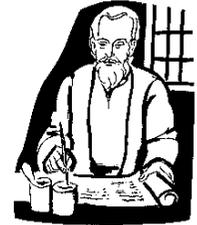
※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



【今週の歩み】
8/31(日) 聖日礼拝
9/1(月)
/2(火)
/3(水)
/4(木) 10:00 聖研
/5(金) 10-12:00 OBS757
/6(土) 13-16子供オプンハウス



【祈りの課題】

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に来れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

プリズン通信抄

「獄中に来られた主イエス」

(2025年8月17日付の吉岡利夫さんからの手紙より)

私が信仰の道に立った18年前、3年近く養育でいただいた福岡県の女性牧師の教会は厳しく、牧師からの主の鞭は容赦なく振り下ろされました。私にとって聖書の学びは辛く苦しく、まさに苦行と同義的で、とても耐えられませんでした。それで、いつしか牧師のムチに激しく抗い、居直り、結果として私は牧師にサジを投げられ、女性牧師から「足の塵を払い落とす」とまで言われたのです。牧師にそこまでブチ切れた発言をさせたということは、もしかしたら、主にまで見放されたのでは、と後悔先に立たず、私は自分の犯した罪の重さに打ちひしがれました。と同時に、その絶望感に私の魂は信仰の敗残者のように虚空を彷徨い、暗黒の底に落ちて行ったのです。それはさながら、バビロンの川のほとりで栄光の都エルサレムを想い悲嘆に暮れる捕囚の民イスラエルの姿そのもののような気がしました。

当時の私は組関係者間のトラブルに巻き込まれて、独居拘禁という処遇に置かれていましたが、その独房の中で私は聖書を読んで読んで読みまくるということにおいては自負がありました。が、聖書は読むだけでは何の益にもならず、私は牧師に対してした己の罪を悔い改め、必死に謝罪の祈りを続けていました。しかし主からの応答はなく、道は閉ざされたままでした。

その日は2010年初夏の休日でした。いつものように、朝食が終わった小机の上に聖書を開いて読んでいた私の肩を、優しくそっと叩かれた感触に振り向くと、そこには独房の壁があるだけで誰もいませんでした。エ〜と思った瞬間、マジに独房の中が炎のような明かりに包まれて、私の体全身がカーッと熱くなり、強烈な聖霊による導きというか、呼びかけのようなものを私は感じました。マジに何が起きたかわからず、慌てふためく私は目の前の聖書を無意識にめくり、開いた場所はヨハネの福音書第8章。私の目に大きく拡大されて飛び込んできたのは11節でした：「彼女は言った、『誰もいません。』そこで、イエスは言われた、『私もあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。』」

そして主イエス・キリストの御声がハッキリと私の耳朶に届き聞こえたのです。「利夫よ。あれだけ暴れたのだから、もう充分だろう。今からは決して罪を犯してはならない。」と！正直に申しますが、己の人生の中で、未だかつて経験したことのない出来事に私は混乱してビビりました。神の存在に震え上がり、恐怖を抱きました。そして、その神の慈愛と忍耐と寛容に私は赦され、信仰の道が再び開かれたのです。只々感涙にむせび、滂沱となって感謝の涙が流れました！今思うと、あれは聖霊体験というものではなく、キリストご自身が授けて下さった聖霊のバプテスマであったというのが私の確信です。その日を境として、私は聖霊の助けによって、何の障害も支障もなく、聖書の学びと自分の信仰の確立のため、野市キリストの教会に導かれたのです。